資治通鑑 第164巻

【梁紀二十】　起重光協洽，盡玄黓涒灘，凡二年。

■梁、●西魏、北齊北齊、続国訳漢文大成 経子史部 第9巻 256p

太宗簡文皇帝下大寶二年（辛未，５５１年）

■**春，正月**，新吳（江西省澦陽道奉新県、現・宜春市奉新県）の**余孝頃**は擧兵して**侯景**を拒み，**景**は**于慶**（ここまでは於慶）を遣わして之を攻め，克たず。

■［蕭繹の軍は武昌に入る］庚戌（46-42+1=５日），湘東王の**繹**は護軍將軍の**尹悅**、安東將軍の**杜幼安**、巴州刺史の**王珣**を遣わして兵二萬を將いて江夏（湖北省江漢道武昌県、現・武漢市江夏区）より武昌（湖北省江漢道武昌県、現・武漢市江夏区）に趣き，**徐文盛**の節度を受ける。

■［楊乾運は魏側の楊法琛を破る］**楊乾運**（梁の潼南梁二州刺史）は攻めて劍閣を抜き，**楊法琛**（法深は蕭紀に黎州刺史の地位を求め得られず、北益州刺史となり、西魏と通じる）は退きて石門（湖南省武陵道石門県、現・常徳市石門県）を保ち，**乾運**は南陰平（晉は南陰平を緜竹に萇楊に置く、四川省西川道綿陽県、現・綿陽市涪城区）に據る。(9-257p)

北齊辛亥（47-42+1=６日），**齊主**は圜丘を祀る。

■**張彪**は其の將の**趙稜**を遣わして錢塘を圍み，**孫鳳**は富春を圍み，**侯景**は儀同三司の**田遷**、**趙伯超**を遣わして之を救わしめ，**稜**、**鳳**は敗走す。**稜**は，**伯超**之兄の子也。

北齊癸亥（59-42+1=１８日），齊主は籍田を耕す。乙丑（1+60-42+1=２０日），太廟を享す。

●北齊［蕭綸は魏に攻められ殺される］魏の**楊忠**は汝南を圍み，**李素**（前巻前年に綸を城に納れる）は戰死す。**二月**，乙亥（11-11+1=１日），城は陷ち，邵陵攜王の**綸**を執り，之を殺し，屍を江岸に投げ。岳陽王の**察**は取り而して之を葬す。

北齊■或は、

「齊の太尉の**彭樂**は謀反を謀る」

と告げる。壬辰（28-11+1=１８日），**樂**は坐して誅せらる。齊は散騎常侍の**曹文皎**を遣わして江陵に使いせしめ，湘東王の**繹**は兼散騎常侍の**王子敏**をして之を報ぜ使む。

■［侯景の支配体制］**侯景**は**王克**を以て太師と為し，**宋子仙**を太保と為し，**元羅**を太傅と為し，**郭元建**を太尉と為し，**支化仁**（続は張化仁）を司徒と為し，**任約**を司空と為し，**王偉**を尚書左僕射と為し，**索超世**を右僕射と為す。**景**は三公官を置き，動（やや）もすれば十を以て數え，儀同は尤も多し。**子仙**、**元建**、**化仁**を以て佐命の元功と為し，**偉**、**超世**を謀主と為し，**於子悅**、**彭雋**をして擊斷を主らしめ，**陳慶**、**呂季略**、**盧暉略**、**丁和**等を爪牙と為す。梁人の**景**が用を為す者は，則ち故の將軍の**趙伯超**，前の制局監の**周石珍**，內監（內の器仗を領す）の**嚴但**，邵陵王の記室の**伏知命**なり。自餘の**王克**、**元羅**及び侍中の**殷不害**、太常の**周弘正**等は，**景**は人望により，加えるに尊位を以てし，腹心之任に非ざる也。

■北兗州刺史の**蕭邕**は魏に降らんと謀り，**侯景**は之を殺す。

■［楊乾運は平興を焚く］**楊乾運**は進みて平興（四川省嘉陵道昭化県、現・広元市元壩区）に據り，平興者，**楊法琛**の治する所也。**法琛**は退きて魚石洞を保ち，**乾運**は平興を焚き而して歸る。

■［陳霸先は江州刺史］**李遷仕**は衆を收めて（前年敗走）還りて南康を擊ち，**陳霸先**は其の將の**杜僧明**等を遣わして之を拒み，**遷仕**を生きて擒とし，之を斬る。湘東王の**繹**は**霸先**をして兵を進めて江州を取ら使め，以て江州刺史と為す。

北齊三月，丙午（42-41+1=２日），齊の襄城王の**淯**は卒す。

●庚戌（46-41+1=６日），魏の**文帝**は殂し（年 45），太子の**欽**（文帝長子、母は乙弗后）は立つ。

■乙卯（51-41+1=１１日），**徐文盛**等は武昌に克ち，進みて蘆洲（武昌の西）に軍す。

北齊■［北齊は蕭繹を梁の相國とす］己未（55-41+1=１５日），齊は湘東王の**繹**を以て梁の相國と為し，梁台を建て，百揆を總べ，製を承けしむ。

北齊齊の司空の**司馬子如**は自ら王に封じるを求め，**齊主**は怒り，庚申（56-41+1=１６日），**子如**の官を免じる。

【侯景は自ら西に出陣し敗退】

■［侯景は西陽に出陣して破れる］**任約**は急を告げ，**侯景**は自ら衆を帥いて西上し，**太子**の**大器**を攜え軍に從うて以て質と為し，**王偉**を留めて居守せしむ。**閏月**（元嘉暦では四月に閏月），**景**は建康を發し，石頭より新林に至り，舳艫は相い接す。**約**は兵を分けて襲いて定州刺史の**田龍祖**（前巻には田祖龍）を齊安（湖北省江漢道黄岡県、現・黄岡市黄州区）に破る。壬寅（38-10+1=２９日），**景**の軍は西陽（江漢道黄岡県の東、現・黄石市黄石港区）に至り，**徐文盛**と江を夾みて壘を築く。**(9-258p)** 癸卯（39-10+1=３０日），**文盛**は擊ちて之を破り，其の右丞の**庫狄式和**を射ち水に墜ちて死し，**景**は遁げて走りて營に還る。

●**夏，四月**（元嘉暦閏月），甲辰（40-40+1=１日），魏は**文帝**を永陵に葬す。

■［侯景は急襲して江夏に入る］郢州刺史の**蕭方諸**は，年は十五なり，行事の**鮑泉**が和弱なるを以て，常に之を侮り易しとし，或は床に伏せ使め，背に騎りて馬と為す。**徐文盛**の軍が近くに在るを恃み，復た備ぇを設けず，日に蒲酒（樗蒲と飲酒）を以て樂（たのしみ）と為す。**侯景**は江夏の空虚なるを聞き，乙巳（41-40+1=２日），**宋子仙**、**任約**をして精騎四百を帥いて，淮内より郢州を襲わ使む。丙午（42-40+1=３日），大風疾雨し，天色は晦冥なり，陴に登りて賊を望見する者有り，**泉**に告げて曰く、

「虜騎は至らんとす矣！」

泉は曰く、

「**徐文盛**の大軍は下に在り，賊は何に因（続は由）りてか至るを得んや！當に是れ**王珣**の軍人が還る耳。」

既に而して走りて告げる者は稍く衆く，始めて閉門を命じ，**子仙**等は已に入城す。**方諸**は方に**泉**の腹に踞し，五色の彩を以て其の髯を辮（交結）す。**子仙**の至るを見，**方諸**は迎え拜し，**泉**は床下に匿れる。**子仙**は俯して窺い**泉**が素髯に彩が間（まじ）わるを見，驚愕し，遂に之，及び司馬の**虞豫**を擒とし，**景**の所に送る。**景**は便風に因り，中江に帆を擧げ，遂に**文盛**等の軍を越える。丁未（43-40+1=４日），江夏に入る。**文盛**の衆は懼れ而して潰え，長沙王（去年封じる）の**韶**等と逃げて江陵に歸る。**珣**、**杜幼安**は家が江夏に在るを以て，遂に**景**に降る。

■［蕭繹は侯景を待ち伏せ］湘東王の**繹**は**王僧辯**を以て大都督と為し，巴州（五代志に梁が巴陵郡に置く、湖南省武陵道岳陽県、現・岳陽市岳陽県）刺史の丹楊の**淳於量**、定州刺史の**杜龕**、宜州（梁が夷陵郡に置くも湖北省荊南道宜昌県、現・宜昌市夷陵区）刺史の**王琳**、郴州（梁が桂陽郡に置く、湖南省衡陽道郴県、現・郴州市北湖区）刺史の**裴之横**を帥いて東に**景**を擊たしめ，**徐文盛**以下並びて節度を承ける。戊申（44-40+1=５日），**僧辯**等の軍は巴陵に至り，郢州の已に陷ちると聞き，因りて留まりて之に成す。**繹**は**僧辯**に書を遺りて曰く、

「賊は既に勝ちに乘り，必ず將に西下せんとす，遠擊するを勞せず。但だ巴丘（巴陵、巴丘山あり）を守るべし，逸を以て勞を待てば，克たざるを慮る無し。」

又た僚佐に謂って曰く、

「**景**（続は賊）が若し水歩兩道より，直に江陵を指せば，此れ上策也。夏首に據り，兵糧を積むは，中策也。力を悉くして巴陵を攻めるは，下策也。巴陵の城は小さく而して固し，**僧辯**は委任す可きに足る。**景**は城を攻めるとも抜かず，野に掠める所無く，暑疫時に起こり，食盡き兵疲れ，之を破るは必なり矣。」

乃ち羅州刺史の**徐嗣徽**に命じて岳陽より、武州刺史の**杜龕**に武陵より兵を引いて**僧辯**に會さしむ。

■［侯景は王僧辯を攻めて、その膽勇に服す］**景**は**丁和**をして兵五千を將いて夏首を守ら使め，**宋子仙**は兵一萬を將いて前驅と為し，巴陵に趣き，**任約**を分遣して直に江陵を指さしめ，**景**は大兵を帥いて水歩繼ぎて進む。是に於いて緣江の戍邏は，**(9-259p)** 風を望みて服せんと請い，**景**は拓邏（巡邏を拓開して以て兵勢を張る）して隱磯（彭城磯の北に在り。二磯の間は揚子江の中）に至り。**僧辯**は城に乘りて固守し，旗を偃（ふ）せ鼓を臥せ，安くして無人の若し。壬戌（58-40+1=１９日），**景**の衆は（隱磯より）江を濟り，輕騎を遣わして城下に至らしめ，問う、

「城內は誰と為すや？」

答えて曰く、

「**王領**軍。」

騎は曰く、

「何そ早く降らざるや？」

僧辯は曰く、

「大軍は但だ荊州に向かえば，此の城は自ら當に礙（がい）（さまたげる）に非ざるべし。」

騎は去り，之 頃（しばらく） して，**王珣**等を執りて城下に至り，其の弟の**琳**を說か使む。**琳**は曰く、

「兄は命を受けて賊を討ち，難に死する能わず，曾（すなわ） ち內に慚じず，翻りて誘いを賜らんと欲す！」

弓を取りて之を射，**珣**は慚じ而して退く。**景**は肉薄して百道より城を攻め，城中は鼓噪し，矢石は雨のごとく下る。**景**の士卒の死者は甚だ衆く，乃ち退く。**僧辯**は輕兵を遣わして出でて戰い，凡そ十餘返，皆な捷つ。**景**は甲を被り城下に在りて督戰し，**僧辯**は綬を著け、輿に乘り、鼓吹を奏して城を巡り，**景**は之を望み，其の膽勇に服す。

●■［蕭詧の介入を蕭繹は拒む］岳陽王の**察**（蕭詧、南朝後梁の初代皇帝）は**侯景**が郢州に克つを聞き，**蔡大寶**を遣わして兵一萬を將いて進みて武寧（五代志に、竟陵郡樂鄉県に旧、武寧郡を置くと。湖北省荊南道松滋県、現・荊州市松滋市）に據らしめ，使いを遣わして江陵に至らしめ，詐りて援に赴くと稱す。衆議は答えるに**侯景**が已に破れるを以てし，其をして軍を退か令めんと欲す。湘東王の**繹**は曰く、

「今語るに退軍を以てすれば，是れ之を趣（うなが） して進ま令むる也。」

乃ち**大寶**に謂って曰わ使む、

「岳陽は累啟して連和し，相い侵犯せず，卿は那（なん）ぞ忽（たちま） ち武寧に據るか？今當に天門太守の**胡僧祐**を遣わして精甲二萬、鐵馬五千をして漣水に頓し，時を待ちて進軍せん。」

察は之を聞き，其の軍を召して還る。**僧祐**は，南陽の人也。

●**五月**，魏の隴西襄公の**李虎**は卒す。

■［侯景は巴陵を攻めて克たず］**侯景**は晝夜巴陵を攻め，克たず，軍中の食は盡き，疾疫して死傷するは太半なり。湘東王の**繹**は晉州刺史の**蕭惠正**を遣わして兵を將いて巴陵を援けしめんとし，**惠正**は堪えずと辭して，**胡僧祐**を舉げて自らに代わらしむ。**僧祐**は時に謀議に坐して旨に忤いて獄に繫がれ，**繹**は即ち之を出し，武猛將軍に拜し，赴き援け令め，之を戒めて曰く、

「賊が若し水戰すれば，但だ大艦を以て之に臨むべし，必ず克たん。若し歩戰を欲すれば，自ら棹を鼓し

て直に巴丘に就く可し，須く鋒を交えるべからざる也。」

僧祐は湘浦(湘水が湖に入る口)に至り，**景**は**任約**を遣わして鋭卒五千を帥いて白堘に據り以て之を待たしむ。

■［陸法和は任約攻撃を請う］**僧祐**は它路に由りて西上し，**約**は其の己を畏るると謂い，急に之を追い，芊口（湖南省武陵道華容県の界、現・岳陽市華容県）に及び，**僧祐**を呼びて曰く、

「吳兒，何ぞ早く降らざるや！走りて何所にか之くや！」

僧祐は應えず，潜に兵を引いて赤沙亭（湖北省荊南道藍利県、現・荊州市藍利市）に至る。會々信州刺史の**陸法和**は至り，之と軍を合わす。**法和**は異術有り，先ず江陵の百里洲（湖北省荊南道枝江県に在り、県の左右に数十洲有り、江東に槃布す。最も大な洲）に隠れ，衣食居處は，**(9-260p)**一に苦行の沙門の如し，或は吉凶を豫言し，多く中たり，人は能く測る莫し。**侯景**之台城を圍む也，或は之に問いて曰く、

「事は將に何如ならんとすや？」

法和は曰く、

「凡そ人は果を取るは，宜しく熟す時を待つべし，撩さずとも自ら落ちん。」

固く之を問い，**法和**は曰く、

「亦た克ち（侯景が台城を取ること）亦た克たず（侯景が遂に敗れる）。」

任約が江陵に向かうに及び，**法和**は自ら之を擊つを請い，**繹**は之を許す。

■［任約は捕虜となり、侯景は退却］壬寅（38-9+1=３０日），**約**は赤亭に至る。**六月**，甲辰(40-39+1=２日），**僧祐**、**法和**は兵を縦ちて之を擊ち，**約**の兵は大いに潰え，殺され溺れる死者は甚だ衆く，**約**を擒として江陵に送る。**景**は之を聞き，乙巳(41-39+1=３日），營を焚きて宵に遁れる。**丁和**を以て郢州刺史と為し，**宋子仙**等を留めて，衆は二萬と號し，郢城に戍せしむ。別將の**支化仁**(張化仁)をして魯山に鎮せしめ，**范希榮**をして江州の事を行わしめ，儀同三司の**任延和**、晉州（梁は晉熙郡に置く、安徽省安慶道懐寧県、現・安慶市懐寧県）刺史の**夏侯威生**をして晉州を守らしむ。**景**は麾下の兵數千と，流れに順い而して下る。**丁和**は大石を以て**鮑泉**及び**虞預**を磕殺（石を持って壓殺）し，黄鶴磯（黄鶴山は一名黄鵠山、湖北省江漢道武昌県治の西、西北二里に黄鶴磯あり、武漢市江夏区）に沈める。**任約**は江陵に至り，**繹**は之を赦す。**徐文盛**は怨望に坐し，獄に下されて死す。巴州刺史の**余孝頃**（新呉に起こり、梁は授けるに巴州刺史を以てす）は兄の子の**僧重**を遣わして兵を將いて鄱陽を救わしめ，**于慶**は退きて走る。

■［王僧辯は東下して魯山等に克つ］**繹**は**王僧辯**を以て征東將軍、尚書令と為し，**胡僧祐**等は皆な位號を進め，兵を引いて東に下ら使む。**陸法和**は還るを請（続は謂）い，既に至り，**繹**は謂って曰く、

「**侯景**は自然に平らがん矣，蜀賊（武陵王紀）は將に至らんとす，請う險を守りて以て之を待たん。」

乃ち兵を引いて峽口（荊南道宜昌県、現・宜昌市西陵区）に屯す。庚申（56-39+1=１８日），**王僧辯**は漢口に至り，先ず魯山を攻め，**支化仁**を擒として江陵に送る。辛酉（57-39+1=１９日），郢州を攻め，其の羅城に克ち，斬首は千級。**宋子仙**は退きて金城に據り，**僧辯**は四面に土山を起こして之を攻める。

■［太子は北に去らず］豫州刺史の**荀朗**は巢湖より濡須に出でて**景**を邀え（帝は密詔して侯景を討たしむ），其の後軍を破り，**景**は奔りて歸り，船は前後相い失う。**太子**の船は樅陽浦に入り，船中の腹心は皆な**太子**に勸め此に因りて北に入らしむ，**太子**は曰く、

「國家の喪敗してより，志は生を圖らず，**主上**は蒙塵し，寧ぞ左右を違離するに忍びんや！吾が今若し去れば，乃ち是れ父に叛しなり，賊を避けるに非ざる也。」

因りて涕泗嗚咽し，即ち命じて前進せしむ。

■甲子（60-39+1=２２日），**宋子仙**等は困蹙し，郢城を輸し，身は還りて**景**に就くを乞う。**王僧辯**は偽り

て之を許し，命じて船百艘を給して以て其の意を安ず。**子仙**は信(まこと)に然りと謂(おも)為い，舟を浮かべて將に發せんとし，**僧辯**は**杜龕**に命じて精勇千人を帥いて堞(ひめがき)（城のひめがき）を攀(よじ)り而して上り，鼓噪して奄進せしめ，水軍主の**宋遙**は樓船を帥いて，江を暗く（樓船四合で埋め尽くされる様）して雲合す。**子仙**は且つ戰い且つ走り，白楊浦（郢城の近く）に至り，大いに之を破る。**周鐵虎**は**子仙**及び**丁和**を生きて擒とし，江陵に送り，之を殺す。(9-261p)

北齊庚午（6+60-39+1=２８日），**齊主**は**司馬子如**（今年の二月に官を免ず）の**高祖**之舊なるを以て，復た以て太尉と為す。

■［蕭繹は圓正を落とし入れ、荊益混乱の元となる］江安（漢の江陽県、四川省永寧道瀘県、現・宜賓市叙州区）侯の**圓正**（武陵王紀の第二子）は西陽太守と為り，寛和にして施を好み，歸附する者は衆く，兵一萬有り。湘東王の**繹**は之を圖らんと欲し，署して平南將軍と為す。至るに及びて，見えず，南平王の**恪**をして之と飲み，醉わ使め，因りて之を內省に囚え，其の部曲を分け，人をして其の罪を告げ使む。荊、益之釁は此より起こる矣。

■**陳霸先**は兵を引いて南康を發し，灨石には二十四灘有り，會々水は暴漲すること數丈，三百里間は，巨石は皆な沒し，**霸先**は進みて西昌（江西省盧陵道吉安県、現・吉安市吉安県）に屯す。

突厥●［突厥土門は魏と婚姻す］鐵勒は將に柔然を伐たんとし，突厥の酋長の**土門**は邀擊して，之を破り，盡く其の衆五萬餘落を降す。**土門**は其の強盛を恃み，柔然に求婚し，柔然の**頭兵可汗**は大いに怒り，人をして之を詈辱して曰わ使む、

「爾は，我之鍛奴（突厥は元は柔然の鉄工なり）也，何ぞ敢えて是の言を發するや！」

土門も亦た怒り，其の使者を殺し，遂に之と絕ち，而して魏に求婚す。魏の丞相の**泰**は**長樂公主**を以て之に妻あわす。

【侯景は皇帝廃立】

■［敗色濃い侯景は建康到着］**秋，七月**，乙亥（11-8+1=４日），湘東王の**繹**は長沙王の**韶**を以て郢州の事を監せしむ。丁亥(23-8+1=１６日），**侯景**は還りて建康に至る。**于慶**は鄱陽より豫章に還り，**侯瑱**は門を閉（続により補填）じて之を拒み，**慶**は江州に走りて，郭默城（晉の將の郭默が反した城）に據る。**繹**は**瑱**を以て（侯瑱傳では南兗州刺史）兗州刺史と為す。**景**は悉く**瑱**の弟を殺す（前年前巻に質と為すあり）。

■［王僧辯は尋陽を攻略］辛丑（37-8+1=３０日），**王僧辯**は勝ちに乘りて湓城に下り，**陳霸先**は部する所の三萬人を帥いて將に之に會さんとし，巴丘（呉の県、江西省豫章道崇仁県、現・撫州市崇仁県）に屯す。西軍（西の荊州から来た）は食乏しく，**霸先**は糧五十萬石有り，三十萬石を分けて以て之が資とす。**八月**，壬寅（38-38+1=１日）朔，**王僧辯**の前軍は于慶を襲い，**慶**は郭默城を棄てて走り，**范希榮**も亦た尋陽城を棄てて走る。晉熙王の**僧振**等は兵を起こして郡城を圍み，**僧辯**は沙州（梁の武帝は置く、白沙關城ら治し、建寧・齊安郡を領す。湖北省江漢道黄岡県の界、現・黄岡市）刺史の**丁道貴**を遣わして之を助けしめ，**任延和**等は城を棄てて走る。湘東王の**繹**は僧辯に命じて且く尋陽に頓し、以て諸軍之集まるを待たしむ。

■［侯景は負けて即位を急ぐ］初め，**景**は既に建康に克ち，常に言う、

「吳兒は怯弱なり，以て掩取し易きなり。當に中原を拓定するを須ちて，然る後に**帝**と為らん。」

景は**帝**の女の**溧陽公主**に尚し，之を嬖し，政事を妨ぐ。**王偉**は屢々諫め，**景**は以て**主**に告げ，**主**は惡言有り。**偉**は讒する所と為るを恐れ，因りて**景**に**帝**を除くを說く。**景**が巴陵より敗れ歸るに及び，猛將（宗子

仙の屬）は多く死し，自ら久しく存す能わざるを恐れ，早く大位に登らんと欲す。**王偉**は曰く、
「古より鼎を移す（武王は前に克ち九鼎を洛邑に遷す。人の国を奪う事）は，必ず廢立を須いる，既に我が威權を示し，且つ彼の民望は絕つ。」
景は之に從う。前壽光殿學士の**謝昊**をして詔書を為ら使め，以為く、
「弟（湘東王繹、武陵王紀）侄（河東王誉、岳陽王察）は **(9-262p)** 爭い立ち，星辰次を失えば，皆な**朕**が緒を正しくするに非ざるに由り，亂を召き災を致す，宜しく位を豫章王の**棟**に禪るべし。」
呂季略をして繼いで入ら使め，**帝**に逼りて之を書せしむ。**棟**は，**歡**（昭明太子の子）之子也。
■［侯景は皇帝を差し替え］戊午（54-38+1=１７日），**景**は衛尉卿の**彭雋**等を遣わして兵を帥いて殿に入らしめ，**帝**を廢して晉安王と為し，永福省に幽し，悉く內外の侍衛を撤し，突騎左右をして之を守ら使め，牆垣は悉く枳棘（からたち、いばら）を布く。庚申（56-38+1=１９日），詔を下し豫章王の**棟**を迎える。**棟**は時に幽拘され，廩餼甚だ薄く，蔬茹を仰ぎて食と為す。方に妃の**張氏**と葵（菜）を鉏く，法駕は奄ち至り，**棟**は驚き，為す所を知らず，泣き而して輦に升る。
■［太子らは皆殺される］**景**は哀**太子**の**大器**、尋陽王の**大心**、西陽王の**大鈞**、建平王の**大球**、義安王の**大昕**及び王侯の建康に在る者二十餘人を殺す。**太子**は神明端嶷にして，**景**の黨に於いて未だ嘗て意を屈せず，親しむ所は竊に之に問い，**太子**は曰く、
「賊が若し事義（事宜）に於いて，未だ殺されるを須いざれば，吾は陵慢（しのぎ侮る）呵叱（大声で叱る）すると雖も，終に敢えて言わず。若し殺される時至れば，一日に百拜すると雖も，亦た益する所無し。」
又た曰く、
「**殿下**は今困阨に居り，而して神貌怡然たり，平日に貶らざるは，何ぞ也？」
太子は曰く、
「吾は自ら死日を度り必ず賊の前に在らん，若し諸叔が能く賊を滅ぼせば，賊は必ず先ず殺され，然る後に死に就かん。若し其の然らざれば，賊も亦た我を殺して以て富貴を取らん，安んぞ能く必死之命を以て無益之愁を為さん乎！」
難に及びて，**太子**の顔色は變わらず，徐ろに曰く、
「久しく此の事を知る，其の晚きを嗟く耳！」
刑者は將に衣帶を以て之を絞せんとす，**太子**は曰く、
「此れ殺されるあたわず。」
命じて帳繩（帳を釣る繩）を取らしめて之を絞め而して絕つ。
■［棟の即位と侯景の逡巡］壬戌（58-38+1=２１日），**棟**は**帝**に即位す。大赦し，改元して天正とす。太尉の**郭元建**は之を聞き，秦郡より馳せ還り，**景**に謂って曰く、
「**主上**は**先帝**の**太子**にして，既に愆失（過失）無し，何ぞ之を廢するを得んや！」
景は曰く、
「**王偉**は吾に勸めて，云わく『早く民望を除くべし』と。吾は故に之に從い以て天下を安んじん。」
元建は曰く、
「吾は**天子**を挾みて諸侯に令す，猶ほ濟らざるを懼る。故無くして之を廢せば，乃ち自ら危くする所以なり，何の安きこと之れ有らんや！」
景は**帝**を迎えて復位し，**棟**を以て太孫と為さんと欲す。**王偉**は曰く、
「廢立の大事は，豈に數々改める可けん邪！」

乃ち止む。

■［さらに諸王誅殺］乙丑（1+60-38+1=２４日），**景**は又た南海王の**大臨**（呉郡太守）を呉郡に，南郡王の**大連**（江州太守）を姑孰に，安陸王の**大春**（東揚州刺史）を會稽に，高唐王の**大壯**（南徐州刺史）を京口に於いて殺さ使む。**太子**の妃を以て**郭元建**に賜わり，**元建**は曰く、

「豈に**皇太子**妃が乃ち人の妾と為る有らん乎！」

竟に與に相い見ず，聽して入道せ使む。

■丙寅（2+60-38+1=２５日），**昭明太子**を追尊して**昭明皇帝**と為し，豫章の**安王**（華容公歡は進みて豫章王に封じられ、薨じて諡して安）を**安皇帝**と為し，金華の**敬妃**（昭明太子の妃蔡氏は太子が既に薨じ、武帝は妃と為し、別に金華宮を立て、供侍一に當儀に同じ、薨じて諡して敬という）を**敬太皇太后**（當に敬皇后に作るべし）と為し，豫章の**太妃**の**王氏**を（9-263p）**皇太后**と為し，妃の**張氏**を皇后と為す。**劉神茂**を以て司空と為す。

北齊**九月**，癸巳（29-7+1=２３日），**齊主**は趙、定（中山に治す、直隷省保定道定県、現・定州市）二州に如き，遂に晉陽に如く。

■己亥（35-7+1=２９日），湘東王の**繹**は尚書令の**王僧辯**を以て江州刺史と為し，江州刺史の**陳霸先**を東揚州刺史と為す。

■［侯景は太宗を誅殺］**王偉**は**侯景**に說き、**太宗**（侯景は帝の廟号を尊びて高宗という。元帝追諡して簡文皇帝といい、廟を太宗と為す）を弑して以て衆心を絕たしめ，**景**は之に從う。**冬，十月**，壬寅（38-37+1=２日）夜，**偉**は左衛將軍の**彭儁**、**王修纂**と酒を**太宗**に進めて曰く、

「丞相は**陛下**を幽憂すること既に久しきを以て，臣等をして來たりて壽を上まら使む。」

太宗は笑いて曰く、

「已に帝位を禪る，何ぞ**陛下**と言うを得んや！此の壽酒は，將(はた)た此に盡きざる乎（壽は將ににこの酒に尽きんとす）！」

是に於いて**儁**等は曲項琵琶（形制大なる胡の五絃楽器）を繼ぎ，**太宗**と極飲す。**太宗**は將に殺されんとするを知り，因りて醉を盡くして，曰く、

「圖らず、樂を為す之斯に至らんとは也！」（論語述而篇の語）

既に醉い而して寢る。**偉**は乃ち出で，**儁**は土囊を進め，**修纂**は其の上に坐し而して殂す（年49）。**偉**は戸扉を撤して棺を為り，遷して城北の酒庫中に殯す。**太宗**は幽縶之後より，復た侍者及び紙無く，乃ち書壁及び板障（板の壁、丹や漆を塗る）に書し，詩及び文數百篇を為り，辭は甚だ淒愴なり。**景**は諡して**明皇帝**と曰い，廟號は**高宗**とす。

■［蕭繹は魏に漢中譲渡］**侯景**之江陵に逼まる也，湘東王の**繹**は援を魏に求め，梁、秦二州刺史の宜豐侯の**循**に命じて南鄭を以て魏に與えしめ，**循**を召して江陵に還らしむ。**循**は故無く城を輸(おく)るは，忠臣之節に非ざるを以て，報じて曰く、

「請う命を改めるを待たん。」

魏の太師の**泰**は大將軍の**達奚武**を遣わして兵三萬を將いて漢中を取らしめ，又た大將軍の**王雄**を遣わして子午谷に出で，上津（陝西省關中道商県、現・商洛市商州区）を攻めしむ。**循**は記室參軍の沛人の**劉璠**を遣わして援を武陵王の**紀**に求めしむ，**紀**は潼州刺史の**楊乾運**を遣わして之を救わしむ。**循**は，**恢**（鄱陽王恢は武帝の弟）之子也。

■［蕭繹は尊号を許さず］**王僧辯**等は**太宗**の殂するを聞き，丙辰（52-37+1=１６日），湘東王の**繹**に啟し

て，尊號を上るを請う。**繹**は許さず。

■［呉の劉神茂の呼応、程靈洗の挙兵］司空、東道行台の**劉神茂**は**侯景**が巴丘より敗れ還るを聞き，陰に**景**に叛かんと謀り，呉中の士大夫は咸な之を勸める。乃ち儀同三司の**尹思合**、**劉歸義**、**王曄**、雲麾將軍の**元頵**（きん）等と東陽に據りて以て江陵に應じ，**頵**及び別將の**李佔**を遣わして下りて建德（浙江省金華道建德県、現・杭州市建德）の江口に據らしむ。**張彪**は永嘉を攻め，之に克つ。新安の民の**程靈洗**は兵を起こして郡に據り以て**神茂**に應じる。是に於いて浙江以東は皆な江陵に附く。湘東王の**繹**は**靈洗**を以て譙州刺史と為し，新安太守を領せしむ。

■［王僧辯等は再上表、許さず］十一月，乙亥（11-7+1=５日），**王僧辯**等は復た上表して勸進し，湘東王の**繹**は許さず。戊寅（14-7+1=８日），**繹**は湘州刺史の安南侯の**方矩**を以て中衛將軍と為し以て自らの副とす。**方矩**は，**方諸**之弟也。南平王の**恪**を以て湘州刺史と為す。(9-264p)

■**侯景**は**趙伯超**を以て東道行台と為し，錢塘に據らしむ。**田遷**を以て軍司と為し，富春に據らしむ。**李慶緒**を以て中軍都督と為し，**謝答仁**を右廂都督と為し，**李遵**を左廂都督と為し，以て**劉神茂**を討たしむ。

■［侯景は皇帝即位、前皇帝は幽閉］己卯（15-7+1=９日），**侯景**に九錫を加え，漢國に丞相以下の官を置く。己丑（25-7+1=１９日），豫章王の**棟**は位を**景**に禪り，**景**は南郊に於いて**皇帝**に即位す。還りて，太極殿に登り，其の黨の數萬は，皆な吹脣（口笛を吹く）呼噪し而して上る。大赦し，改元して太始とす。**棟**を封じて淮陰王と為し，其の二弟の**橘**、**橑**を並せて同じく密室に鎖す。

■［侯景は父の名のみ知る］**王偉**は七廟を立てるを請い，**景**は曰く、

「何をか七廟と謂うや？」

偉は曰く、

「**天子**は七世の祖考を祭る。」

並せて七世の諱を請い，**景**は曰く、

「前世は吾は復た記せず，唯だ我が父の名は**標**なるを記すのみ。且つ彼は朔州（侯景は懷朔鎮の人）に在り，那ぞ來たりて此に啖（くら）うを得んや！」

衆は咸な之を笑う。**景**の黨に**景**の祖の名は**乙羽周**と知る者有り。自外（その他）は皆な**王偉**が其の名位を制し，父の**標**を追尊して**元皇帝**と為す。

■［侯景は皇帝を楽しまず］**景**之相と作る也，西州を以て府と為し，文武は尊卑無く皆な引接す。禁中に居るに及び，故舊に非ざれば見るを得ず，是に由りて諸將は多く怨望す。**景**は好みて獨り小馬に乘り，飛鳥を彈射し，**王偉**は毎に之を禁止し，輕々しく出でるを許さず。**景**は鬱鬱として樂しまず，更に志を失うを成して，曰く、

「吾は**帝**と為るを事とする無し，擯（擯斥されると人事に預かる無し）を受けると殊ならず。」

■壬辰（28-7+1=２２日），**湘東王**は長沙王の**韶**を以て郢州刺史と為す。

■［武陵王紀も皇帝模索］益州長史の**劉孝勝**等は武陵王の**紀**に**帝**を稱するを勸め，**紀**は未だ許さずと雖も，而して大いに乘輿車服を造る。

■**十二月**，丁未（43-36+1=８日），**謝答仁**、**李慶緒**は建德を攻め，**元頵**、**李占**を擒として建康に送り，**景**は其の手足を截ちて以て徇（とな）え，日を經て乃ち死す。

北齊［中山王と魏の神主全て消す］**齊主**は出入する毎に，常に**中山王**を以て自らに隨え，王妃の**太原公主**（渤海王の高歡の女）は恆に之が為に飲食を嘗め，之を護視す。是の月，**齊主**は**公主**に酒を飲ませ，人をし

て**中山王**を鴆（毒殺）せ使め，之を殺し，其の三子を並せ，王に謚して魏の**孝靜皇帝**と曰い，鄴の西の漳北に葬る。其の後**齊主**は忽ち其の陵を掘り，梓宮を漳水に投じる。**齊主**が初めて禪を受けるや，魏の神主は悉く七帝寺（魏の七廟の神主を寄せる寺）に寄せ，是に至りて，亦た取りて之を焚く。

北齊彭城公の**元韶**は高氏の婿（魏の孝武帝の后を娶る、高歡の女なり）なるを以て，寵遇は諸元に異なる。開府儀同三司の美陽公（齊が降して封じる）の**元暉業**は位望の隆重にして，又た志氣は倫ならざるを以て，尤も**齊主**の忌む所と為り，**齊主**に従いて晉陽に在り。**暉業**は宮門の外に於いて**韶**を罵りて曰く、

「爾は一老嫗に及ばず，**(9-265p)** 璽を負いて人に與える（前巻前年にあり）。何ぞ之を擊碎せざるや！我は此の言を出せば，即ち死するを知る，爾も亦た詎ぞ幾時をか得んや！」

齊主は聞き而して之，及び臨淮公の**元孝友**を殺し，皆な汾水の冰を鑿つて，其の屍を沉める。**孝友**は，**彧**（魏の臨淮王）之弟也。**齊主**は嘗て**元韶**の鬢鬚を剃り，之に粉黛を加え以て自らに隨えて，曰く、

「吾は彭城を以て嬪御と為す。」

其の懦弱なること婦人の如きを言う也。

世祖孝元皇帝上承聖元年（壬申，５５２年）

（元帝の諱は繹、字は世誠、小字は七符、武帝の第七子）

■**春，正月，湘東王**は南平内史の**王褒**を以て吏部尚書と為す。**褒**は，**騫**（王倹の子）之孫也。

北齊■齊人は屢々**侯景**の邊地を侵し，甲戌（10-6+1=５日），**景**は**郭元建**を遣わして歩軍を帥いて小峴に趣かしめ，**侯子鑒**をして舟師を帥いて濡須に向かわしめ，己卯（15-6+1=１０日），合肥に至る。齊人は城を閉じて出でず，乃ち引いて還る。

北齊丙申（32-6+1=２７日），**齊主**は庫莫奚を伐ち，大いに之を破り，俘獲は四千人，雜畜十餘萬なり。

北齊［**唐邕の軍事的才能**］**齊主**は連年塞を出，給事中兼中書舍人の**唐邕**は軍書を練習し，督將より以降、勞效の本末及び四方の軍士の強弱多少，番代の往還，器械の精粗，糧儲の虛實，諳悉せざるは無し。或は**帝**の前に於いて簡閱し，數千人と雖も，文簿を執らず，其の姓名を唱え，未だ嘗て謬誤せず。**帝**は常に曰く、

「**唐邕**の強幹は，一人で千に當る。」

又た曰く、

「**邕**は軍事有る毎に，手ずから文書を作り，口は且つ處分し，耳は又た聽受す，實に異人也！」

寵待賞賜は，群臣は及ぶ莫し。

●魏の將の**王雄**は上津、魏興を取り，東梁州（五代志に、西城軍安康県は元は寧都といい、齊は安康郡を置き、後魏は東梁州を置くと）刺史の安康（陝西省漢中道安康県、現・安康市漢浜区）の**李遷哲**の軍は敗れる。之に降る。

突厥［**突厥土門は柔然を破り、伊利可汗と号す**］突厥の**土門**は柔然を襲擊し，大いに之を破る。柔然の**頭兵可汗**は自殺し，其の太子の**庵羅辰**及び**阿那瑰**の從弟の**登注俟利**、**登注**の子の**庫提**並びに衆を帥いて齊に奔り，餘衆は復た**登注**の次子の**鐵伐**を立てて主と為す。**土門**は自ら**伊利可汗**と號し，其の妻を號して**可賀敦**と為し，子弟は之を特勒（當に特勤に作るべし。錢大昕の十賀齊要眞錄に、唐の時の石刻を引きて徵と為し、以て通鑑諸書の誤を辨ず、極めて的確と為す）と謂い，別に兵に將たる者は皆な之を設と謂う。

【蕭繹は侯景を追い詰める】

■［王僧辯・陳霸先は東征す］湘東王は王僧辯等に命じて東に侯景を撃たしむ。二月，庚子（36-35+1=２日），諸軍は尋陽を發し，舳艫は數百里。陳霸先は甲士三萬，舟艦二千を帥いて，南江（贛水のこと）より湓口に出，僧辯に白茅灣（棠落洲の西）に會し，壇を築きて血を歃（すす）り，共に盟文を讀み，流涕して慷慨す。癸卯（39-35+1=５日），僧辯は侯瑱をして南陵、鵲頭二戍を襲（続により補充）わ使め，之に克つ。戊申（44-35+1=１０日），僧辯等は大雷に軍す。丙辰(52-35+1=１８日），鵲頭を發す。戊午（54-35+1=２０日），侯子鑒は(合肥より)還りて戰鳥（宜州南陵県に鵲洲有り、戰鳥圻有り。江中に孤在す、元は孤圻。昔桓温は兵を挙げて東下し、この圻中に往ま。宵に鳥驚き、桓温は官軍之を囲むと謂い、既にして定まる。群鳥の驚噪するを以て戰鳥と名付ける）に至り，(9-266p)西軍は奄至し，子鑒は驚懼して，奔りて淮南に還る。

■［劉神茂は謝答仁に敗れて降る］侯景の儀同三司の謝答仁は劉神茂を東陽に攻め，程靈洗、張彪は皆な兵を勒して將に之を救わんとし，神茂は其の功を專らにせんと欲し，許さず，下淮に營す。或は神茂に謂って曰く、

「賊は野戰に長ず，下淮は地平らかにして，四面に敵を受ける，七里瀨（桐盧県に在り、建徳より 40 餘理、厳陵瀬と相接す、浙江省金華道桐盧県、現・杭州市桐盧県）に據るに如かず，賊は必ず進む能わず。」

從わず。神茂の偏裨（偏將・裨將）は北人多く，神茂と同心せず，別將の王曄、酈通は並びて外營に據り，答仁に降る。劉歸義、尹思合等は城を棄てて走る。神茂は孤り危うく，辛未（7+60-35+1=３３日?），亦た答仁に降り，答仁は之を建康に送る。

■［侯景は動揺し、皆笑う］癸酉（9+60-35+1=３４日?），王僧辯等は蕪湖に至り，侯景の守將の張黑は城を棄てて走る。景は之を聞き，甚だ懼れ，詔を下して湘東王の繹、王僧辯之罪を赦し，衆は鹹な之を笑う。侯子鑒は姑孰の南洲に據りて以て西師を拒み，景は其の黨の史安和等を遣わして兵二千を將いて之を助けしむ。三月，己巳（5-5+1=１日）朔，景は詔を下して自ら姑孰に至らんと欲し，又た人を遣わして子鑒を戒めて曰く、

「西人は水戰を善くす，與に鋒を爭う勿かれ。往年任約之敗れるは，良（まこと）に此れが為也。若し步騎一たび交わるを得れば，必ず當に破る可し，汝は但だ營を岸上に結び，船を引きて浦に入れて以て之を待つべし。」

子鑒は乃ち舟を捨てて岸に登り，營を閉じて出でず。僧辯等は軍を蕪湖に停めること十餘日，景の黨は大いに喜び，景に告げて曰く、

「西師は吾之強きを畏れ，勢いは將に遁れんとす矣，擊たざれば，且に之を失うべし。」

景は乃ち子鑒に覆命して水戰之備えを為さしむ。

■［侯子鑒は王僧辯に姑孰で大敗］丁丑（14-5+1=１０日），僧辯は姑孰に至り，子鑒は步騎萬餘人を帥いて洲を度り，岸に於いて挑戰し，又た艗［舟了］（長い小舟）千艘を以て戰士を載せる。僧辯は細船を麾（さしまね）きて皆な退縮せ令め，大艦を留めて兩岸に夾泊す。子鑒之衆は水軍は退かんと欲すと謂い，爭いて出でて之に趨く。大艦は其の歸路を斷ち，鼓噪大呼して，中江に合戰し，子鑒は大敗し，士卒の水に赴きて死する者は數千人なり。子鑒は僅に身を以て免れ，散卒を收めて走りて建康に還り，東府に據る。僧辯は虎臣將軍の莊丘慧達を留めて姑孰に鎮せしめ，軍を引いて而して前み，歷陽の戍は迎えて降る。景は子鑒の敗れるを聞き，大いに懼れ，涕下りて面を覆い，衾を引き而して臥し，良く久しく方（はじ）めて起き，歎じて曰く、「誤りて乃公（だいこう）（一人称の人代名詞。男性が、目下の人に対して、または尊大に、自分をさしていう）を殺す！」

■［西軍は石頭城で侯景と対決］庚辰（16-5+1=１２日），僧辯は諸軍を督して張公洲（蔡洲）に至り，辛巳（17-5+1=１３日），潮に乘りて淮に入り，進みて禪靈寺（齊の武帝の建てる寺）の前に至る。景は石頭津主の

張賓を召し，淮中の［舟叉］［舟歩］(艖と船の短く深きもの) 及び海艟を引か使め，石を以て之を緪け，淮口を塞ぐ。淮に縁いて城を作り，石頭より朱雀街に至る，十餘里中，樓堞は相い接す。**僧辯**は計を**陳霸先**に問い，**霸先**は曰く、

「前に**柳仲禮**の數十萬の兵は水を隔てて而して坐し（162 巻武帝太清三年にあり），**韋粲**は青溪に在り，竟に岸を度らず，賊は高きに登りて之を望み，表裡倶に盡くす，故に能く我が師徒を覆す。今石頭を圍むには，須く北岸に度るべし。諸將が若し鋒に當る能わざれば，**霸先**は請う（9-267p）先ず往きて柵を立てん。」

壬午（18-5+1=１４日），**霸先**は石頭の西の落星山に於いて柵を築き，衆軍は次ぎて連に城に入（八×）り，直に石頭の西北に出る。**景**は西州の路絕えんことを恐れ，自ら**侯子鑒**等を帥い亦た石頭の東北に於いて五城を築き以て大路を遏む。**景**は**王偉**等をして台城を守ら使む。乙酉（21-5+1=１７日），**景**は**湘東王**の世子の**方諸**、前平東將軍の**杜幼安**を殺す。

■［侯景は劉神茂を大剉碓で殺す］**劉神茂**は建康に至り，丙戌（22-5+1=１８日），**景**は命じて大剉碓（大剉力を為り、機を発すること碓の如く、人が踏む）を為り，先ず其の足を進め，寸寸に之を斬り，以て頭に至らしむ。**留異**は外は**神茂**に同じ而して潜に**景**に通じ，故に禍いを免かるるを得る。

■［陳霸先は侯景と決戦］丁亥（23-5+1=１９日），**王僧辯**は進みて招提寺（石頭城の北）の北に軍し，**侯景**は衆萬餘人、鐵騎八百餘匹を帥いて西州之西に陳ず。**陳霸先**は曰く、

「我は衆く賊は寡なし，應に其の兵勢を分けて，強を以て弱を制すべし。何が故に其の鋒鋭を聚めて，死を我に致さ令むや！」

乃ち諸將に命じて處を分けて兵を置く。**景**は將軍の**王僧志**の陳を衝き，**僧志**は小さく縮み，**霸先**は將軍の安陸の**徐度**を遣わして弩手二千を將いて其の後を横截せしめ，**景**の兵は乃ち卻く。**霸先**は**王琳**、**杜龕**等と鐵騎を以て之に乗り，**僧辯**は大軍を以て繼ぎて進み，**景**の兵は敗退し，其の柵に據る。**龕**は，**岸**（太清三年に荊州雍州が難を構える時に死す）之兄の子也。**景**の儀同三司の**盧暉略**は石頭城を守り，北門を開きて降り，**僧辯**は入りて之に據る。**景**は**霸先**と殊死して戰い，**景**は百餘騎を帥いて，槊を棄てて刀を執り，左右に陳を衝く。陳は動かず，衆は遂に大いに潰え，諸軍は北げるを逐い西明門（建康の外城の西中門）に至る。

【侯景の建康逃亡】

■［侯景は逃亡し、西軍は台城に入る］**景**は闕下に至り，敢えて台に入らず，**王偉**を召し之を責めて曰く、

「爾は我をして**帝**と為さ令む，今日我を誤る！」

偉は對える能わず，闕を繞り而して藏れる。**景**は走らんと欲し，**偉**は鞚を執りて諫めて曰く、

「古より豈に叛天子（太平御覧には走天子）有らん邪！宮中の衛士は，猶ほ一戰するに足る，此を棄て，將に安くに之かんと欲するや？」

景は曰く、

「我は昔**賀拔勝**を敗り（156 巻武帝中大通六年にあり），**葛榮**を破り（152 巻武帝大通二年にあり），名を河、朔に揚げ，江を度りて台城を平らげ，**柳仲禮**を下す（162 巻太清三年にあり）こと掌を反す如し。今日天は我を亡ぼす也！」

因りて仰ぎて石闕を觀，歎息すること之久し。皮囊を以て其の江東にて生む所の二子を盛り，之を鞍後に掛け，**房世貴**等百餘騎と東に走り，**謝答仁**に吳に就かんと欲す。**侯子鑒**、**王偉**、**陳慶**は朱方に奔る。**僧辯**は**裴之横**、**杜龕**に命じて**杜姥**の宅に屯せしめ，**杜龕**をして入りて台城に據らしむ。**僧辯**は軍士を戢めず，居民を剽掠す。男女裸露にして，石頭より東城に至るまで，號泣して道に滿つ。是の夜，軍士の遺火は、

太極殿及び東西の堂を焚き，寶器、羽儀、輦輅の遺る無し。

■［旧臣の出迎え］戊子（24-5+1=２０日），**僧辯**は**侯瑱**等に命じて精甲五千を帥いて**景**を追わしむ。**王克**、**元羅**等は台内の舊臣を帥いて**僧辯**を道に迎え，**僧辯**は**克**を勞わりて曰く、

「甚だ苦なり，夷狄之君に事えるや。」(9-268p)

克は對える能わず。又た問う、

「璽紱は何くに在るや？」

克は良く久しく曰く、

「**趙平原**（侯景の侍中趙思賢は平原の太守を兼ねる）が持ち去る。」

僧辯は曰く、

「**王氏**は百世の卿族なり，一朝に而して墜つ。」

僧辯は**太宗**の梓宮を迎え朝堂に升り，百官を帥いて哭踴すること禮の如し。

■［蕭繹は即位を承知せず］己丑（25-5+1=２１日），**僧辯**等は上表して勸進し，且つ迎えて建業に都せしむ。**湘東王**は答えて曰く、

「淮海の長鯨（書經禹貢に曰く、淮海は惟れ揚州と、長鯨は侯景）は，首を授けると雲うと雖も、襄陽の短狐（岳陽王察は襄陽に據り、湘東と敵と為す。短狐は蜮なり、沙を含みて人を射る、これに中る者は死す）は，未だ全く面を革（あらた）めず（易に曰く、小人は面を革むと）。太平の玉燭（爾雅に、春は春陽と為し、夏は朱明と為し、秋は白藏と為し、冬は玄英と為し、四時和するこれをと謂う）は，爾は乃ち之を議すべし。」

■庚寅（26-5+1=２２日），南兗州刺史の**郭元建**、秦郡戍主の**郭正買**、陽平戍主の**魯伯和**、行南徐州事の**郭子仲**，並びて城に據りて降る。

■［朱買臣は棟兄弟を誅殺］**僧辯**之江陵を發する也，**湘東王**に啟して曰く、

「賊を平らげる之後，嗣君は萬福ならば，未だ何を以て禮と為すを審かにせず？」

王は曰く、

「六門（台城の門）之內，自ら兵威を極めん。」

僧辯は曰く、

「賊を討つ之謀は，臣は己が任と為す，成濟（魏の高貴鄉公を弑す。王僧辯は君を弑するの悪名を避けんとす）之事は，請う別に人を舉げよ。」

王は乃ち密に宣猛將軍の**朱買臣**に諭し，之が所を為さしむ。**景**の敗れるに及び，**太宗**は已に殂し，豫章王の**棟**及び二弟の**橘**、**櫽**は相い扶けて密室より出る，**杜崱**に道に逢い，為に其の鎖を去る。二弟は曰く、

「今日始めて横死を免る矣！」

棟は曰く、

「倚伏（賈誼の鵩鳥の賦に曰く、禍は福の倚る所、福は禍の伏する所と）は知り難し，吾は猶ほ懼れる有り！」

辛卯（27-5+1=２３日），**朱買臣**に遇い，之を呼びて船に就かしめ共に飲みて，未だ竟わらず，並せて水に沉める。

■［廣陵は北齊に降る］**僧辯**は**陳霸先**を遣わして兵を將いて廣陵に向い**郭元建**等の降を受けしめ，又た使者を遣わして往きて之を安慰せしむ。諸將は多く私し別に馬仗を索（もと）め使め，會々**侯子鑒**は江を度りて廣陵に至り，**元建**等に謂って曰く、

「我が曹（ともがら）は，梁之深き仇となる，何の顏（かんばせ）ありてか復た其の主を見んや！北に投ずるに若かず，鄉に還るを得る可からん。」

遂に皆な齊に降る。**霸先**は歐陽に至り，齊の行台の**辛術**は巳に廣陵に據る。

■［王偉は捕まりて言い返す］**王偉**は**侯子鑒**と相い失い，直瀆（沈約志に、盱眙太守の下に直瀆令有り、晉の安帝は県を立つ。安徽省淮泗道盱眙県、現・淮安市盱眙県）戍主の**黃公喜**は之を獲り，建康に送る。**王僧辯**は問いて曰く、く

「卿は賊の相と為り，節に死する能わず，而して草間に活きるを求める邪？」

偉は曰く、

「廢興は，命也。**漢帝**をして早く**偉**の言に從わ使めば，明公は豈に今日有るや！」（台城の落ちるに、僧辯は既に侯景に降り、許して竟陵に遷し、今日に至る、この言は僧辯を慚じしめるなり）

尚書左丞の**虞騭**は嘗て**偉**の辱しむる所と為り，乃ち其の面を唾す。**偉**は曰く、

「君は書を讀まず，與に語るに足らず！」

騭は慚じ而して退く。**僧辯**は羅州刺史の**徐嗣徽**に命じて朱方に鎮す。

■［侯景は呉郡に逃亡］壬辰（28-5+1=２４日），**侯景**は晉陵に至り，**田遷**の餘兵（劉神茂を攻める餘兵、晉陵にあり）を得，因（続は曰く）りて居民を驅掠し，東して吳郡に趨く。

北齊**夏，四月，齊主**は大都督の**潘樂**をして**郭元建**と兵五萬を將いて陽平を攻め使む。之を拔く。(9-269p)

■**王僧辯**は**陳霸先**を啟して京口に鎮せしむ。

【蕭紀の皇帝即位】

■［益州の蕭紀は皇帝即位］益州刺史、太尉の武陵王の**紀**は，頗る武略有り，蜀に在ること十七年，南に寧州、越巂を開き，西に資陵、吐谷渾に通じ，內に耕桑鹽鐵之政を修め，外に商賈遠方之利を通じ，故に能く其の財用を殖し，器甲は殷積し，馬八千匹有り。**侯景**が台城を陷とし，**湘東王**が將に之を討たんとするを聞き，僚佐に謂って曰く、

「**七官**（湘東王は兄弟の次に於いて第七）は文士なり，豈に能く匡濟（悪事をただし、世の乱れを救う）せんや！」

內寢の柏殿の柱に節を繞りて花を生じ，**紀**は以て己が瑞と為す。乙巳（41-34+1=８日），**皇帝**に即位し，改元して天正とし，子の**圓照**を立てて**皇太子**と為し，**圓正**を西陽王と為し、**圓滿**を竟陵王と為し，**圓普**を譙王と為し，**圓肅**を宜都王と為す。巴西、梓潼二郡太守の永豐（県の名、呉は永豐県を立て始安郡に属す）侯の**撝**を以て征西大將軍、益州刺史と為し，秦郡王に封じる。司馬の**王僧略**、直兵參軍の**徐怦**は固く諫め，從わず。**僧略**は，**僧辯**之弟。**怦**は，**勉**（徐勉は梁初の賢相）之從子也。

■［蕭紀は人望足らず］初め，台城之圍まれるや，**怦**は**紀**に速かに入援するを勸め，**紀**の意は行くを欲せず，內に之を銜む。會々蜀人の**費合**は、**怦**の反すと告げ，**怦**は將帥に書を與えて云える有り、

「事事は往人が口具すべし。」（委細は使者が申し述べる）

紀は即ち以て反征と為し，**怦**に謂って曰く、

「卿の舊情を以て，當に諸子をして恙為しから使むべし。」

對えて曰く、

「兒を生むも悉く殿下の如し（紀が君父を救わざるを譏る）ならば，之を留めて何の益あるや！」

紀は乃ち盡く之を誅し，市に梟首し，亦た**王僧略**を殺す。永豐侯の**撝**は歎じて曰く、

「王の事は成らず矣！善人は，國之基也，今先ず之を殺せば，亡びずして何をか待たん！」

紀は宜豐侯の咨議參軍の**劉璠**を征（続は徵）して中書侍郎と為し，使者は八反し，乃ち至る。**紀**は**劉孝勝**をして深く腹心を布か令め，**璠**は苦ろに還るを求める。中記室の**韋登**は私に**璠**に謂って曰く、

「**殿下**は忍に而して憾(うら)みを畜え，足下は留まらざれば，将に大禍を致さんとす，孰(いずれ)若ぞや共に大夏を構え，身名をして俱に美なら使む哉！」
璠は正色して曰く、
「卿は我に緩頬（説く、漢の高帝は酈食其に謂って曰く、緩頬して往きて魏王豹に説けと）せんと欲する邪？我は府侯（宜豐侯循）と分義已に定まる，豈に夷險を以て其の心を易えん乎！**殿下**は方に大義を天下に布き，終に志を一夫に逞(たくま)しくせざらん。」
紀は必ず己が用を為さざるを知り，乃ち厚く禮して之を遣る。宜豐侯の**循**を以て益州刺史と為し，隨郡王に封じ，**璠**を以て**循**の府の長史、蜀郡太守と為す。

【侯景の滅亡】

■<u>［侯景は松江に追い詰められる］</u>**謝答仁**は**劉神茂**を討ちて還り，富陽に至り，**侯景**の敗走を聞き，萬人を帥いて北に出でて之を候(うかが)わんと欲し，**趙伯超**は錢塘に據りて之を拒む。**侯景**は進みて嘉興（もと長水、秦は由拳と改め、呉の孫権黄龍四年に由拳県に嘉禾を生じ、禾興という。孫晧は父の名を避けて嘉興とす。浙江省旧嘉興府、北呉郡に 155 里）に至り，**伯超**が之に叛すを聞き，乃ち退きて呉に據る。己酉（45-34+1=１２日），**侯瑱**は追いて**景**に松江（暈澤、太湖の支流、呉淞江。呉県の皆 40 里に在り。江蘇省滬海道松江県、現・上海市松江区）に及び，**景**は猶ほ船二百艘，衆數千人有り，**瑱**は進撃し，之を敗り，**彭雋**、**田遷**、**房世貴**、**(9-270p) 蔡壽樂**、**王伯丑**を擒る。**瑱**は生きて**雋**の腹を剖き，其の腸を抽す。**雋**は猶ほ死せず，手自ら之を收め，乃ち之を斬る。
■<u>［侯景は羊昆に殺され、勢力殲滅］</u>**景**は腹心數十人と單舸にして走り，二子を水に推し墮とし，將に海に入らんとし，**瑱**は副將の**焦僧度**を遣わして之を追わしむ。**景**は**羊侃**之女を納れて小妻と為し，其の兄の**昆**を以て庫直都督と為し，之を待つこと甚だ厚し。**昆**は**景**に隨いて東に走り，**景**と親する所の**王元禮**、**謝葳蕤**と密に之を圖る。**葳蕤**は，**答仁**之弟也。**景**は海に下り，蒙山（東安郡新泰県に有り。侯景は海に浮かびて山東に赴き、復北に入らんと欲す、山東省済南道新泰県、現・泰安市新泰市）に向かわんと欲し，己卯（乙卯なら 51-34+1=１８日），**景**は晝寢す。**昆**は海師（水先案内人）に語る、
「此の中に何の處にか蒙山有らん，汝は但だ我が處分を聽け。」
遂に直に京口に向かう。胡豆洲に至り，**景**は覺め，大いに驚く。岸上の人に問い，云わく、
「**郭元建**は猶ほ廣陵に在り」
と，**景**は大いに喜び，將に之に依らんとす。**昆**は拔刀し，海師を叱して京口に向かい，因りて**景**に謂って曰く、
「吾等は王に為に力を效すこと多し矣，今此に至り，終に成す所無し，就きて頭を乞い以て富貴を取らんと欲す。」
景は未だ答えるに及ばず，白刃は交々下る。**景**は水に投ぜんと欲し，**昆**は刀を以て之を斫る。**景**は走りて船中に入り，佩刀を以て船底を抉(えぐ)り，**昆**は槊を以て之を刺殺す。尚書右僕射の**索超世**（王偉と共に侯景の謀主）は別船に在り，**葳蕤**は**景**の命を以て召し而して之を執る。南徐州刺史の**徐嗣徽**は**超世**を斬り，鹽を以て**景**の腹中に內れ，其の屍を建康に送る。**僧辯**は首を江陵に傳え，其の手を截ち，**謝葳蕤**をして齊に送ら使む。**景**の屍を市に暴(さら)し，士民は爭いて取りて之を食し，骨を並せて皆な盡く。**溧陽公主**も亦た焉を食らうに預かる。初め，**景**之五子は北齊に在り，**世宗**は其の長子の面を剝ぎ而して之を烹る，幼なき者は皆な蠶室に下す。齊の**顯祖**の即位するや，獼猴が其の御床に坐するを夢み，乃ち盡く之を烹る。**趙伯超**、**謝答仁**は皆な**侯瑱**に降り，**瑱**は**田遷**等を並せて建康に送る。**王僧辯**は**房世貴**を市に斬り，**王偉**、**呂季略**、**周石珍**、**嚴**

但、**趙伯超**、**伏知命**を江陵に送る。
■丁巳（53-34+1=２０日），**湘東王**は下令して嚴を解く。

【侯景滅亡後のつばぜり合い】

■［辛術は傳國の璽を東魏に持参］乙丑（1+60-34+1=２８日），**簡文帝**を莊陵に葬り，廟號を**太宗**とす。
侯景之敗れる也，傳國の璽を以て自ら隨え，其の侍中兼平原太守の**趙思賢**をして之を掌ら使め，曰わく、
「若し我死すれば，宜しく江に沉めるべし，吳兒に復た之を得令める勿かれ。」
思賢は京口より江を濟り，盜に遇い，從者は之を草間に棄て，廣陵に至り，以て**郭元建**に告げる。**元建**は之を取り，以て**辛術**に與え，（五月）壬申（8-4+1=５日），**術**は之を送りて鄴に至る。
北齊（六月）甲申（30-4+1=２７日），齊は吏部尚書の**楊愔**を以て右僕射と為し，**太原公主**を以て之に妻あわす。**公主**は即ち魏の**孝靜帝**之**后**也。
●［南鄭攻防戦］**楊乾運**は劍北（劍關の北）に至り，魏の**達奚武**は逆えて之を擊ち，大いに**乾運**を白馬に破り，其の俘馘を南鄭城下に陳ね，且つ人を遣わして宜豐侯の**循**を辱む。**循**は怒り，兵を出して與に戰い，都督の**楊紹**は（9-271p）兵を伏して之を擊ち，殺傷して殆んど盡く。**劉愔**は（成都より）還りて白馬（魏收志に、華陽郡沔陽県の西北に白馬城有り、陝西省漢中道沔県、現・漢中市勉県褒城鎮武侯鎮）の西に至り，**武**の獲る所と為り，長安に送る。太師の**泰**は素より其の名を聞き，之を待つこと舊交の如し。時に南鄭は久しく下らず，**武**は之を屠らんと請い，**泰**は將に之を許さんとす。**璠**は之を朝（西魏）に請い，**泰**は怒り，許さず。璠は泣いて請うこと已まず，**泰**は曰く、
「人に事えること當に是くの如くあるべし。」
乃ち其の請いに從う。
■［湘東王は即位せず］**五月**，庚午（6-4+1=３日），司空の南平王の**恪**等は復た勸進し，**湘東王**は猶ほ受けず，侍中の豐城侯の**泰**等を遣わして山陵に謁し，廟社を修復せしむ。
■［侯景の首は漆塗り］戊寅（14-4+1=１１日），**侯景**の首は江陵に至り，之を市に梟すること三日，煮而して之を漆ぬりにし，以て武庫に付ける。庚辰(16-4+1=１３日），南平王の**恪**を以て揚州刺史と為す。甲申（20-4+1=１７日），**王僧辯**を以て司徒、鎮衛將軍と為し，長寧公に封じる。**陳霸先**を征虜將軍、開府儀同三司と為し，長城縣侯に封じる。
■［湘東王は王偉も惨殺］乙酉（21-4+1=１８日），**侯景**の署する所の尚書僕射の**王偉**、左民尚書の**呂季略**、少府の**周石珍**、舍人の**嚴但**を市に誅す。**趙伯超**、**伏知命**は獄に於いて餓死す。**謝答仁**は禮を**太宗**に失わざるを以て，特に之を宥す。**王偉**は獄中に於いて五百言（五十韻の詩）の詩を上り，**湘東王**は其の才を愛し，之を宥さんと欲す。之を嫉む者有り，**王**に言って曰く、
「前日**偉**は檄文を作りて甚だ佳なり。」
王は求め而して之を視る，檄に曰く、
「**項羽**の重瞳，尚ほ烏江之敗有り。**湘東**は一目，寧んぞ赤縣（畿甸の県）の歸す所と為らん！」
王は大いに怒り，其の舌を柱に釘し，腹を剜り、肉を臠し而して之を殺す。
北齊■丙戌［22-4+1=１９日］，齊の合州刺史の**斛斯昭**は歷陽を攻め，之を拔く。
■［赦免令］丁亥（23-4+1=２０日），下令し，以て、
「**王偉**等は既に死し，自餘の衣冠舊貴は，逼られて生を偷み，猛士勳豪は，和光して苟くも免れる者は，皆な問わず。」

■［魯悉達は新蔡に自立し、王僧辯に附く］扶風の民の**魯悉達**は，郷人を糾合して以て新蔡（湖北省江漢道黄梅県、現・黄岡市黄梅県）を保ち，田を力めて穀を蓄える。時に江東は饑亂し，餓死する者は什に八九，遺民は老幼を攜えて之に歸す。**悉達**は糧廩を分給し，全濟すること甚だ衆く，晉熙等の五郡を招集し，盡く其の地を有つ。其の弟の**廣達**をして兵を將いて**王僧辯**に從いて**侯景**を討た使め，**景**は平らぎ，**悉達**を以て北江州（梁の武帝が置く、鹿城關に治し、義陽・齊昌・新昌・梁安・齊興郡を領す。湖北省江漢道黄安県の南、現・黄岡市紅安県）刺史と為す。

北齊■［侯景平定を東魏西魏に通告］**齊主**は其の散騎常侍の**曹文皎**等をして來聘せ使め，**湘東王**は散騎常侍の**柳暉**等をして之に報ぜ使め，且つ**侯景**を平らげるを告げる。亦た舍人の**魏彥**を遣わして魏に告げしむ。

北齊■［齊は梁の秦郡を攻める一方で通行］**齊主**は**潘樂**、**郭元建**をして兵を將いて秦郡を圍ま使め，行台尚書の**辛術**は諫めて曰く、

「朝廷は**湘東王**と信使絕えず。陽平は，**侯景**之土なり，之を取るも可也。今**王僧辯**は已に**嚴超達**を遣わして秦郡を守らしめ，義に於いて何ぞ復た之を爭うを得んや！且つ水潦は方に降り，師を班すに如かず。」

從わず。**陳霸先**は別將の**徐度**に命じて兵を引いて秦郡を助けて固守せしむ。齊の衆は七萬，之を攻めること（9-272p）甚だ急なり。**王僧辯**は左衛將軍の**杜龕**をして之を救わ使め，**霸先**も亦た歐陽より來會す。**元建**と土林（六合県の界）に大戰し，大いに之を破り，斬首は萬餘級，生擒は千餘人，**元建**は餘衆を收めて北に遁れる。猶ほ通好するを以て，窮追せず也。

北齊■［辛術の人材登用の折衷］**辛術**は吏部尚書に遷る。魏が鄴に遷ってより以來（続は以後），大選（吏部の選）之職は，名を知らるる者は數人，互いに得失有り。齊の**世宗**は少年高朗にして，弊れる所の者は疏なり。**袁叔德**は沈密謹厚にして，傷つける所の者は細なり。**楊愔**は風流辯給にして，士を取るに浮華（うわべは華やかで、実質の乏しい）に失す。唯だ**術**の性は貞明を尚び，士を取れば必ず才器を以てし，名に循いて實を責め，新舊は參舉し，管庫も必ず擢んで，門閥も遺さず，之を前後に考えるに，最も折衷と為る。

●［柳帶韋は南鄭の宜豐侯循を説得して降す］魏の**達奚武**は尚書左丞の**柳帶韋**を遣わして南鄭に入らしめ，宜豐侯の**循**を說いて曰く、

「足下の固める所の者は險，恃む所の者は援，保つ所の者は民なり。今王旅は深く入り，憑む所之險は固まるに足らざる也。白馬（楊乾運）は破れ走り，酋豪は進まず，望む所之援は恃む可からざる也。長圍四合し，部する所之民は保つ可からざる也。且つ足下は本朝喪亂し，社稷は主無し，誰が為に忠を為さんと欲する乎！豈に禍いを轉じて福と為し，**慶**をして子孫に流れ使むるに若かん邪！」

循は乃ち降を請う。**帶韋**は，**慶**（161 巻武帝太清二年にあり）之子也。開府儀同三司の**賀蘭德願**は城中の食盡きるを聞き，之を攻めるを請い，大都督の**赫連達**は曰く、

「戰わず而して城を獲るは，策之上なる者なり，豈に其の子女を利し，其の貨財を貪りて，而して民の命を愛さざる可けん乎！且つ觀るに其の士馬の猶ほ強く，城池尚ほ固し，之を攻めて縱え克つとも，必ず彼此は俱に傷つく。困獸の猶ほ鬥う（左傳の呉の夫[既木]王の言）が如し，則ち成敗は未だ知る可からざる也。」

武は曰く、

「公の言は是也。」

乃ち**循**の降を受け，男女二萬口を獲而して還り，是に於いて劍北は皆な魏に入る。

北齊六月，丁未（43-33+1=１１日），**齊主**は鄴に還る。乙卯（51-33+1=１９日），復た晉陽に如く。

■庚寅（七月なら 26-3+1=２４日），安南侯の**方矩**を立てて王太子と為す。

北齊■齊は散騎常侍の**謝季卿**を遣わして來たらしめ、**侯景**を平らげるを賀す。
■衡州刺史の**王懐明**は亂を作し，廣州刺史の**蕭勃**は討ちて之を平らぐ。
北齊［齊の内乱に陳霸先は呼応］齊の政は煩わしく賦は重く，江北之民は齊に屬するを樂しまず，其の豪傑は數々兵を**王僧辯**に請い，**僧辯**は齊と通好するを以て，皆な許さず。**秋，七月**，廣陵の僑人（僑郡の人）の**朱盛**等は潛に黨數千人を聚め，齊の刺史の**溫仲邕**を襲いて殺さんと謀り，遣使して援を**陳霸先**に求め，雲う、
「已に其の外城に克つ」
と。**霸先**は**僧辯**に告げ使め，**僧辯**は曰く、
「人之情僞は，未だ測る可きこと易からず，若し審かに外城に克てば，亟かに須く應援すべし，如し其の爾らざれば，進軍するを煩わす無し。」
使いは未だ報ぜざるに，**霸先**は已に江を濟り，**僧辯**は乃ち武州刺史の**杜龕**等に命じて之を助けしむ。會々**盛**等の謀は洩れる，**霸先**は因りて進軍して廣陵を圍む。(9-273p)
●［西魏の黄衆寶の乱］八月，魏の安康の人の**黄衆寶**は反し，魏興を攻め，太守の**柳檜**（柳慶の兄、157巻豚手大同三年にあり）を執り，進みて東梁州（梁は南梁州を西城郡に置く。西魏は改めて東梁州という。陝西省漢中道安康県の西北、現・安康市漢浜区）を圍む。**檜**をして城中に誘說せ令め，**檜**は從わず而して死す。**檜**は，**虬**之弟也。太師の**泰**は**王雄**を遣わして驃騎大將軍の武川の**宇文虬**と之を討たしむ。
■［蕭紀は東下］武陵王の**紀**は舉兵して外水より東に下り，永豐侯の**撝**を以て益州刺史と為し，成都を守らしめ，其の子の宜都王の**圓肅**をして之の副とせ使む。
■**九月**，甲戌（10-2+1=９日），司空の南平王の**恪**は卒す。甲申（20-2+1=１９日），**王僧辯**を以て揚州刺史と為す。
北齊［廣陵包囲を解く交渉］**齊主**は**王僧辯**、**陳霸先**に告げ使めて曰く、
「請う廣陵之圍みを釋(と)け，必ず廣陵、歷陽の兩城を歸さん。」
霸先は兵を引いて京口に還り，江北之民の**霸先**に從いて江を濟る者は萬餘口なり。**湘東王**は**霸先**を以て征北大將軍、開府儀同三司、南徐州刺史と為し，**霸先**（長城県公に封じられる）の世子の**昌**及び兄の子の**頊**を征して江陵に詣らしめ，**昌**を以て員外散騎常侍と為し，**頊**を領直（梁の宿衛の官に四廂領直有り、直衛の士を領す）と為す。
●■［蕭循の魏から梁に帰還の顛末］宜豐侯の**循**之魏に降る也，丞相の**泰**は其の南に還るを許し，久しく而して未だ遣らず，從容として**劉璠**に問いて曰く、
「我は古に於いて誰に比するや？」
對えて曰く、
「**璠**は常に公を以て**湯**、**武**と為し，今日見る所は，曾ち**桓**、**文**にも之れ如かず！」
泰は曰く、
「我は安んぞ敢えて**湯**、**武**に比せん，庶幾(こいねが)わくは**伊**、**周**を望まん，何ぞ**桓**、**文**に如かざるに至るや！」
對えて曰く、
「齊の**桓**は三亡國（魯・衛・邢）を存し，晉の**文**は信を原を伐つに失わず。」
語りて未だ竟(おわ)らざるに，**泰**は掌を撫でて曰く、
「我は爾の意を解す，我を激せんと欲する耳。」
乃ち**循**に謂って曰く、

「**王**（紀は循を随郡王とす）は荊に之かんと欲するか，為(は)たまた益に之かんか？」
循は江陵に還るを請い，**泰**は厚く禮して之を遣る。**循**は文武千家を以て自らに隨わし，**湘東王**は之を疑い，遣使して覘察せしめ，道に相い望む。始めて至る之夕，命じて其の財を劫竊せしめ，旦に及び，**循**は啟して馬仗を輸し，**王**は乃ち之を安じ，引いて入れ，對泣し，**循**を以て侍中、驃騎將軍、開府儀同三司と為す。
北齊［長城建設］冬，十月，**齊主**は晉陽より離石に如き，黃櫨嶺（長突戍の東）より長城（唐の石州に起こり、北の武州の境に抵る、石州は山西省冀寧道離石県、現・呂梁市離石区、武州は山西省雁門道五寨県、現・忻州市五寨県）を起こし，北に社平戍に至るまで，四百餘里，三十六戍を置く。
■［蕭繹は王琳を執る］戊申（44-31+1=１４日），**湘東王**は湘州刺史の**王琳**を殿中に執り，其の副將の**殷晏**を殺す。**琳**は本は會稽の兵家にして，其の姊妹は皆な王宮に入る，故に**琳**は少きとき**王**の左右に在り。**琳**は勇を好み，**王**は以て將帥と為す。**琳**は身を傾けて士に下り，得る所の賞賜，以て家に入れず。麾下は萬人，多くは江、淮の群盜なり，**王僧辯**に從いて**侯景**を平らげ，**杜龕**と功は第一に居る。建康に有り，寵を恃みて縱暴なり，**僧辯**は禁ずる能わず。**僧辯**は宮殿之燒ける（軍人が燒く）を以て，罪を得るを恐れて，**琳**を以て責めを塞がんと欲し，**(9-274p)** 乃ち密に**王**に啟し，**琳**を誅するを請う。**王**は**琳**を以て湘州と為し，**琳**は自ら禍いに及ばんことを疑い，長史の**陸納**をして部曲を帥いて湘州に赴か使め，身ずから江陵に詣りて陳謝し，**納**等に謂って曰く、
「吾が若し返らざれば，子は將に安くに之かん？」
鹹な曰く、
「請う之に死せんと。」
相い泣き而して別れる。江陵に至り，**王**は**琳**を吏に下す。
■［陸納は湘州を取る］辛酉（57-31+1=２７日），**王**の子の**方略**を以て湘州刺史と為し，又た廷尉の**黃羅漢**を以て長史と為し，太舟卿（梁は初め都水台使者と為す、天監七年改める。船航堤渠を主る）の**張載**と巴陵に至ら使め，先ず**琳**の軍に據らしむ。**載**は**王**に寵有り，而るに下を御すること峻刻にして，荊州人は之を疾むこと仇の如し。**羅漢**等は**琳**の軍に至り，**陸納**及び士卒は並びて哭し，肯えて命を受けず，**羅漢**及び**載**を執る。**王**は宦者の**陳旻**を遣わして往きて之を論さしめ，**納**は**旻**に對して**載**の腹を剖り，腸を抽きて以て馬の足に繫ぎ，繞(めぐ)り而して走ら使め，腸は盡きて氣は絕える。又た臠割し，其の心を出し，之に向かいて抃舞（手を打ちて舞う）し，其の餘骨を焚く。**黃羅漢**の清謹なるを以て而して之を免ず。**納**は諸將と兵を引いて湘州を襲い，時に州中に主は無く，**納**は遂に之に據る。

【湘東王繹は皇帝即位】

■［世祖は皇帝に即位］公卿籓鎮は數々**湘東王**に勸進し，**十一月**，丙子（12-1+1=１２日），**世祖**は江陵に於いて**皇帝**に即位し，改元し（太清を承聖とす），大赦す。是の日，**帝**は正殿に升らず，公卿は陪列し而して已む。
■丁丑（13-1+1=１３日），宜豐侯の**循**を以て湘州刺史と為す。
■己卯（15-1+1=１５日），**王**の**太子**の**方矩**を立てて**皇太子**と為し，名を**元良**と更む。皇子の**方智**を晉安王と為し，**方略**を始安王と為し，**方等**（湘州を伐ちて戰死）之子の**莊**を永嘉王と為す。母の**阮修容**（修容は魏の文帝の制する所、晉以来、位は九嬪に列す）を追尊して**文宣皇后**と為す。
■［侯景の乱で梁は縮小］**侯景**之亂に，州郡の太半は魏に入り，巴陵より以下建康に至り，長江を以て限

りと為し，荊州の界は北は武寧（岳陽王察）に盡き，西は硤口（武陵王紀）に拒り，嶺南は復た**蕭勃**の據る所と為り，詔令の行う所，千里に而して近し，民戸の籍に著く者は，三萬に盈たず而して已む。

■［陸納の反乱を討伐］**陸納**は衡州（衡陽県に治す、湖南省衡陽道衡陽県、現・衡陽市衡山県）刺史の**丁道貴**を湶口（衡陽県東 20 里に酈湖れいこ有り、其の水湛然として緑色なり、取りて以て酒を醸すに甘味なり、これを酈湶といい、湶口は酈湖口、現・衡陽市衡山県）に襲撃し，之を破る。**道貴**は零陵に奔り，其の衆は悉く**納**に降る。**上**は之を聞き，遣使して司徒の**王僧辯**、右衛將軍の**杜崱**、平北將軍の**裴之横**を征して宜豐侯の**循**と共に**納**を討たしめ，**循**は巴陵に軍し以て之を待つ。**侯景**之亂に，零陵人の**李洪雅**は其の郡に據り，**上**は即ち以て營州（營陽郡は漢の零陵の地。湖南省衡陽道零陵県、現・永州市零陵区）刺史と為す。**洪雅**は**陸納**を討つを請い，**上**は之を許す。**丁道貴**は餘衆を収めて之と俱にす。**納**は其の將の**吳藏**を遣わして襲撃し，之を破り，**洪雅**等は退きて空雲城（空靈城の誤り。水經注に、長沙建寧県の故城の南に空冷峡有り、湘水の経る所なり）を保ち，**藏**は兵を引いて之を圍む。之頃（しばら）して，**納**は降を請い，妻子を送らんこと（人質）を求む，**(9-275p) 上**は**陳旻**を遣わして**納**の所に至らしめ，**納**の衆は皆な泣き，曰く、

「王郎は囚えられ，故に我が曹は（旻×）罪を湘州に逃げる，它志有るに非ざる也。」

乃ち妻子を出して**旻**に付ける。**旻**は巴陵に至り，**循**は曰く、

「此れ詐り也，必ず將に我を襲わん。」

乃ち密に之が備えを為す。**納**は果たして夜輕兵を以て**旻**の後に繼ぎ，城下に至りて鼓噪せんと約す。**十二月**，壬午(壬子の誤り、48-30+1=１９日)の晨，巴陵を去ること十里，衆は已に至ると謂い，即ち鼓噪し，軍中は皆な驚く。**循**は胡床に坐し，壘門に於いて之を望み，**納**は水に乘りて來攻し，矢は雨の如く降り，**循**は方に甘蔗を食し，略ぼ懼れる色無し。徐（おもむろ）に將士を部分して之を擊ち，其の一艦を獲る。**納**は退きて長沙を保つ。

北齊壬午(やはり壬子の誤りか、48-30+1=１９日)，**齊主**は鄴に還る。戊午(54-30+1=２５日)，復た晉陽に如く。

令和 5 年 4 月 20 日　　翻訳開始　12055 文字
令和 5 年 5 月 2 日　　翻訳終了　25206 文字